

カトリック

新潟教区報



教皇フランシスコの

励ましを受けて

新潟司教 タルチシオ 菊地 功



教皇様と謁見される菊地司教様

私たちは歴史の証人となっているのかもしれない。私たちは今年、六〇〇年ぶりともいわれる教皇の自発的退位という大きな出来事を目撃しました。そしてその直後には、教皇フランシスコが初めて南米から選ばれるという歴史的出来事を目撃しました。加えて、新しい教皇は、メディアに大きく取り上げられるように、様々な教会の伝統を変更して、ご自分のスタイルと貫くという、これまた歴史的な出来事を自ら生み出されています。まさしく私たちが、歴史に残る出来事を目撃しているのであり、歴史の証人となっているのです。

そこには聖霊の豊かで確かな導きがあったと私たちは信じています。ですから教皇フランシスコは教会の伝統をうち破るような改革者ではなく、かえって私たちひとりひとりに、キリスト者として生きるとはどういうことなのか、具体的な決断を迫ろうとされているように私には感じられます。教皇フランシスコの、たとえば聖木曜日に大聖堂で荘厳な典礼を行うのではなく、少年刑務所で少年少女たちの足を洗いキスをするその具体的で目に見える行為は、決して荘厳な典例の否定や放棄ではなく、その荘厳さを支える根底にある出来事の見直しを求めているように思われます。つまり、荘厳な典礼の陰に隠れてしまっている、あの最後の晩餐において弟子の足を洗うイエスの切々たる思いにあらためて心をはせるようにと、私たちに求めているように思うのです。いかなれば、信仰におけるショック療法を施して、私たちの目を覚まそうとされているのではないかと感じています。四月七日に昼の祈りに集まった人々に、教皇フランシスコは次のように語りかけました。

「復活したキリストの霊は使徒たちの心から恐れを取り除き、二階の広間から出て、福音を伝えるよう彼らを促します。わたしたちも、復活したキリストへの信仰をあかしする勇氣をもっともたなければなりません。キリスト信者であること、キリスト信者として生きることを恐れてはなりません。行って、復活したキリストを告げ知らせる勇氣をもたなければなりません」

復活の出来事を完全に理解していなかった弟子たちは、部屋に鍵をかけて皆で一緒に不安のうちに隠れていました。そこに復活したイエスが現れ、鍵を開けて外へ出かけ福音を告げるようにと弟子たちを促し、勇氣づけます。

今教会に、イエスによる促しと勇氣づけが与えられています。世界の教会を見渡せば、これまでキリスト教国といわれていた国々で人々の教会離れが深刻化し、また中には大きなスキヤンダルを抱えている国もあります。私たちの教区では、日本の少子高齢化の波が激しく押し寄せ、教会の規模の縮小は遠い将来の問題ではなくなっています。そんなとき、人間はどうしても護りの体制に入ってしまうのではないのでしょうか。外へ出るよりも、鍵をかけ、何も失わないように護ろうとする。そんな私たちに教皇フランシスコは、恐れずに勇氣を持って外に出ようと呼びかけます。教皇の呼びかけに応えて、勇氣を持って一歩、外へ踏み出しましょう。

第一次(四月一日付任命)
《新発田地区》
▼石黒晃泰師 加茂教会小教区管理

司祭人事

()内はこれまでの任務

第二次(四月一日付任命)
《秋田地区》
▼トラン・ドゥック・デイム師 土崎教会助任(新司祭) 〓神言修道会(着任は七月)
《長岡地区》
▼上村勉師 表町教会・福住教会主任兼任(名古屋教区瑞浪教会主任) 〓神言修道会
▼ホセ・ルイス・グレゴリオ・ロレンゾ師 表町教会・福住教会協力司祭(表町教会・福住教会助任兼任) 〓神言修道会
《教区委員会関連》
▼ホセ・ルイス・グレゴリオ・ロレンゾ師 難民移住移動者委員会委員 滞日外国人司牧担当

者・三条教会主任兼任(三条教会主任)
《新潟地区》
▼ラウール・バラデス師 新潟教会主任(青山教会主任) 〓高松教区
▼高橋学師 花園教会・鳥屋野分教会主任(表町教会・福住教会主任兼任)
▼坂本耕太郎師 青山教会主任(加茂教会主任)
《長岡地区》
▼伊藤幸史師 糸魚川教会・直江津教会・高田教会協力司祭(日本カトリック神学院) 〓東京教区
《教区外へ転出》
▼江部純一師(新潟教会主任) 〓東京教区
▼サバティカル
▼ルイス・フェルナンド師(花園教会・鳥屋野分教会主任) 〓高松教区

第七回 新潟教区 宣教師評議会の開催

第七回宣教師評議会が二〇一三年四月二十九日に開催されました。宣教師評議会は司祭、信徒、奉獻生活者(修道会)、活動団体の代表者が地域を越えて一同に集まり、新潟教区の宣教師のあり方を司教に提案する会議です。年一回開催される会議であり、委員の任期は二年であるため、今回の会議から評議員は新しい顔触れとなりました。

第七回宣教師評議会では、①優先課題の取り組みについて、②信仰年の取り組みについて、③地区・小教区の再編について、④新司教館建設工事の進捗状況と献金状況について報告と意見交換がありました。

①優先課題の取り組みについて
新潟教区の五地区(秋田・山形・新発田・新潟・長岡)、女子奉獻生活者(修道会)、女性の会から優先課題の取り組み状況について報告がありました。優先課題は昨年の宣教師評議会でも時間をかけて見直しを行い、教区百周年にあたり新たな一歩を踏み出すために、現在教区を挙げて取り組んでいる課題です。報告内容は主に、外国籍信徒の信仰養成、高齢化を迎えた教会の取り組み(高齢信徒のミサの送迎)、連絡・ネットワークの取り組み、青少年の信仰養成についてでした。

②信仰年の取り組みについて
各地区・小教区で行われている信仰年の取り組みについて、報告がありました。これから開かれる信仰養成講座・勉強会の日程、小中学生の錬成会や青少年の合宿の開催等の準備状況についての説明がありました。

③地区・小教区の再編について
司祭・信徒の高齢化および人数の減少、平成の市町村合併による行政区と地区・小教区地域の違いなど、近年、新潟教区の置かれている環境が変化しています。このため、昨年の宣教師評議会から地区・小教区の再編について検討しています。行政区や交通網に沿った地区再編の試案や信徒がもっている小教区への思い(自分たちの教会・私の家族といった思い)、小教区統合の困難さ等の話が報告されました。また、長岡市内の福住教会、表町教会が信徒数の減少と建物の維持管理の観点から二〇一四年一月に合併する予定であることが報告されました。地区・小教区の再編については今すぐに結論が出るものではないものの、い

れ見直しが必要になる課題であるため、継続して検討することになりました。

④新司教館建設工事の進捗状況と献金状況
現在、工事の業者の選定・契約が終わり、五月十日に起工式を行う予定であることが報告されました。献金の状況は目標額の一億円に対して、四月十六日現在、約三千三百五十二万円(三三・五%)の献金が集まっています。目標に向けて継続して呼びかけをすることが報告されました。さらに建設工事は年内に完了する予定であること、新しい司教館への引越しの前にオープンハウスを行う予定であること、竣工式は季節の良い来年の春に考えていることが報告されました。

⑤その他
その他、各評議員からの提案・意見として、青少年の信仰育成について、ワールドユースデイ二〇一三の申し込み状況について、教区の行事の予定(米沢・佐渡巡礼、教区大会の予定)、百周年記念行事の後の状況(十字架レーのその後)について話がありました。



第7回宣教師評議会

聖香油ミサに与る

二〇一三(平成二十五年)年三月二十六日(水)十時、司教座聖堂において菊地司教ほか司祭二十二名の共同司式により、信徒六十名の参加をもって聖香油のミサが捧げられました。

ミサは集会祈願で「キリストの祭司職にあずかるわたしたちが、世に



聖香油ミサ

あつて救いのかかしをたてることができよう」と祈り、次の箇所が朗読されました。

第一朗読…イザヤ六十一章一―九節

三 a、六 a、八 b

第二朗読…黙示録一章五―八節
福音朗読…ルカによる福音四章十六―二十一節

菊地司教は説教の中で、東日本大震災の発生から二年が過ぎた様子を、仙台教区サポート会議のなかから被災者の実例を紹介してくださり、いま日本の教会がとり続けている「被災地の方々とともに歩む姿勢」は私たちの福音的価値のかかしであるとし、さらに、信仰年の次の三つの問いかけにふれられました。

第一に、私たちは何を信じているのでしょうか。

第二に、私たちはどうして信じているのでしょうか。

第三に、私たちは信じていることをどのように生きていくのでしょうか。

これらは、私たち一人ひとりに対する問いかけであると同時に、小教

区共同体全体への問いかけでもあります。信仰の原点を振り返るとき、東北の復興という課題は同じ時を生きるキリスト者にとって、そして教会にとって「やむにやまれぬ」熱意をもって取り組むべき課題であると説かれました。また、聖香油ミサは、日ごろは目に見えない形で共に働いているわけではない新潟教区の司祭団が、司教と共に祭壇を囲み、信徒の皆さんと一緒にミサをささげることによって、教会の共同体性と一致を再確認する機会です。司祭はこのようにして共に集い、自らの叙階の日、すなわち司祭としての第一日目思い起こし、初心に立ち返ることによって主イエスから与えられた使命の根本を再確認するので、どうか、私たち司祭が主キリストから与えられた使命に忠実に生き、日々の生活の中でそれを見失うことなく、生涯を通じて使命に生き抜くことが出来るように祈ってください、と呼び掛けられました。

ミサ中祝別された「病者の油」「洗礼志願者の油」と聖別された「聖香油」は、ミサ後、司祭が各教会に持ち帰り秘跡のしるしの油となります。



聖香油奉納

新潟教区

二〇一二年 決算報告

新潟教区の会計年度は一月一日～十二月三十一日までの一年間です。二〇一二年の決算は三月開催の司教顧問会、司祭評議会に報告され承認されました。

小教区ならびに教区本部の財政は厳しい状況で推移しております。この状況の中で一〇〇周年事業の特別献金に引続き、昨年八月に新司教館建設のための特別献金をお願いし、皆様から多大な負担と格別な協力をいただいております。感謝して二〇一二年度の決算概要についてご報告させていただきます。

収支の内容は別表にまとめましたので参照ください。

小教区一般会計の収支状況

経常収支は三三〇万円の黒字
 総収支では一、二六〇万円の赤字

小教区の決算は、各教会から十二月末の決算書を送付いただき、それを集計したものです。

財政の要である献金収入全体としては、前年度とほぼ同額ですが、内訳では教会維持費、ミサ献金、司祭活動費は前年度比マイナスです。このマイナス分は一般献金、特別献金、祭儀献金で補われ献金収入合計で前年度並みとなりました。

各項目のうち前年度に比べ大幅にマイナスになっている項目がありますが、これは前年度(二〇一一年)新庄教会の震災崩落補修、青山教会建物補修、見附教会の聖堂補修のための大規模工事費用と、それに伴う寄付金、特別会計からの資金振替があつたためです。

当年度は大規模工事もなく経常収支ベースでは三三〇万円の黒字、一般会計と特別会計との資金の振替等の財務収支を含めた総収支ベースでは一、二六〇万円の赤字となりました。

総収支ベースの赤字分は、一般会計の繰越残高から特別会計へ積立振替した一、九二〇万円が含まれています。

資料1
 ・「小教区一般会計収支計算書」

教区本部一般会計の収支状況

一般会計は実質五五万円の赤字

収入総額から支出総額を差引いた当年度の収支額は五三〇万円の赤字となりましたが、「司祭寄付金等と司祭人件費」と「一粒会負担金と神学生養成費」を一般会計で処理しておりますので、この収支残高を差引くと実質一般会計の収支額は五五万円の赤字となりました。赤字額は前年度より少し改善しております。

本部財政の基である教区負担金、司祭活動負担金、一粒会負担金、学校法人負担金の負担金収入合計はいずれも前年度比マイナスとなりました。各小教区の厳しい財政状況が伺えます。

職員人件費は前年度比マイナスとなりましたが、これは教区職員を聖母学園に移籍し、教区の事務処理を委託する形態をとつたためです。また、当年度教区一〇〇周年記念事業が行われ、総費用は一、〇六七万円かかりました。この費用は全額信徒の皆様からの特別献金等で賄われ、一般会計を通して事務処理しました。

資料2
 ・「教区本部一般会計収支計算書」

教区本部特別会計の収支状況

一〇〇周年事業会計

皆様のご協力で一〇〇周年記念事業を無事終了することが出来ました、ありがとうございます。

ご協力いただいた特別献金等収入額合計は一、四四六万円、記念誌、祝賀会費用等支払額合計は一、〇六七万円費用全額は皆様からの献金で賄うことが出来ました。余剰金が三七九万円となりましたが、全額新司教館建設特別献金へ積立振替させていただきます。

資料3
 ・「一〇〇周年事業収支報告」

・新司教館建設会計

昨年八月に新司教館建設計画をお知らせし、特別献金をお願い致しました。建設費ならびに十二月末現在の献金額は次のようになっております。献金状況につきましては随時「建設委員会ニュース」、「教区報」でお知らせいたします。

- ・建設費総額(予定額) 一億七、〇〇〇万円
- ・建設計画時資金手当て額 七、三一〇万円
- ・献金額 一、五七〇万円

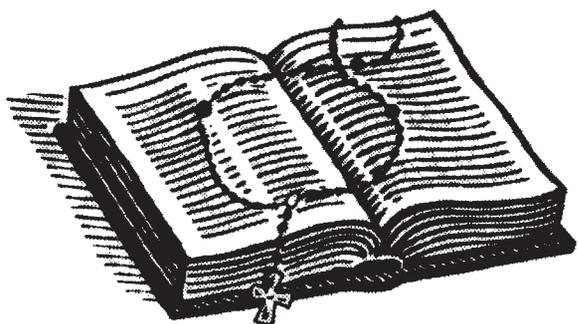
四月末現在の献金額は、本教区報に別掲いたしました。

・その他の特別会計

その他の特別会計の「一粒会会計」、「建設・共済基金会計」、「指定献金」の収支決算状況は「資料4」から「資料6」のとおりです。

以上が二〇一二年度の決算状況ですが、信徒、司祭の高齢化や昨今の経済情勢から引続き厳しい財政状況が続くことが予想されます。財政基盤の確立に向け引続き検討していきます。主任司祭を始め信徒の皆様が教区財政に対するご理解とご協力をお願いいたします。

(教区事務局長 大瀧浩一)



資料2

2012年度 教区本部一般会計収支計算書
(2012年1月1日～2012年12月31日)

(単位：千円)

項目	2012年度	2011年度	増減額
負担金収入	22,964	24,627	-1,663
教区負担金(教区維持費)	10,600	10,959	-359
司祭活動負担金	6,308	6,708	-400
一粒会負担金	4,526	4,975	-449
学校法人・修道会負担金	1,530	1,985	-455
寄付金収入	29,799	27,032	2,767
司祭寄付金	15,954	15,370	584
一般・特別寄付金	13,845	11,662	2,183
献金収入	3,304	2,902	402
その他の収入	865	4,010	-3,145
収入合計	56,932	58,571	-1,639
宗教活動費	18,822	19,026	-204
神学生養成費	1,640	1,452	188
祭儀費、寄付金等	17,182	17,574	-392
事務運営費	6,993	6,201	792
人件費	25,035	26,774	-1,739
司祭人件費(含法定福利費)	19,081	18,766	315
職員人件費	5,954	8,008	-2,054
その他の支出	756	761	-5
支出合計	51,606	52,762	-1,156
①収支差額	5,326	5,809	-483

〈司祭寄付金等と司祭人件費〉

項目	2012年度	2011年度	増減額
司祭寄付金・司祭活動負担金	22,262	22,078	184
司祭人件費(含法定福利費)	19,081	18,766	315
②司祭人件費等収支額	3,181	3,312	-131

〈一粒会負担金と神学生養成費〉

項目	2012年度	2011年度	増減額
一粒会負担金等	4,526	4,975	-449
神学生養成費	1,640	1,452	188
地区練成会等補助	192	105	87
③一粒会収支額	2,694	3,418	-724

実質収支額(①-②-③)	-549	-921	372
--------------	------	------	-----

資料1

2012年度 小教区一般会計収支計算書
(2012年1月1日～2012年12月31日)

(単位：千円)

項目	2012年度	2011年度	増減額
献金収入	89,215	89,078	137
教会維持費収入	47,651	48,777	-1,126
ミサ献金収入	22,648	24,032	-1,384
一般・臨時献金収入	6,917	5,144	1,773
祭儀献金収入	6,579	4,586	1,993
司祭活動献金収入	5,420	6,539	-1,119
指定献金収入	5,863	6,036	-173
一粒会献金収入	4,549	4,543	6
寄付金収入	35,808	55,597	-19,789
事業収入	757	1,143	-386
その他の経常収入	3,482	6,038	-2,556
経常収入計	139,674	162,435	-22,761
財務収入	13,652	33,798	-20,146
収入合計	153,326	196,233	-42,907
宗教活動費	55,321	59,974	-4,653
指定献金支出	6,104	7,107	-1,003
一粒会献金支出	4,533	4,609	-76
事務運営費	34,542	35,295	-753
人件費	7,996	7,753	243
維持管理費	25,449	53,743	-28,294
事業支出	192	277	-85
その他の経常支出	2,246	442	1,804
経常支出計	136,383	169,200	-32,817
財務支出	29,586	21,166	8,420
支出合計	165,969	190,366	-24,397
①収支差額	-12,643	5,867	-18,510
①経常収支差額	3,291	-6,765	10,056
次期繰越金	92,600	105,243	-12,643

資料3

100周年事業収支報告 ～2013年3月31日現在

(単位：千円)

支出			収入		
項目	金額	摘要	項目	金額	摘要
記念ミサ会場設営関係費	1,025	設営費、式次第	特別献金額	9,876	信徒の皆さんからの特別献金額
祝賀会費用	3,128	ホテル祝賀会	当日ミサ献金・ご祝儀	3,124	
記念誌	4,160	制作、発送代	記念祝賀会会費	400	
十字架リレー関係費	334	十字架作成料、100周年祈りカード等	信徒使徒職協議会信徒大会補助	500	
ストラップ製作費	632		ストラップ販売代金	560	
信徒大会費	223	講師謝礼、手話・筆記者謝礼等			
その他	1,164	教皇大使・司教謝礼、会議費等			
支出額合計	10,666		収入額合計	14,460	
差引収支残高	3,794				

・収支残高金は司教館建設特別献金へ振替積立

資料5

2012年度 建設・共済基金収支決算書
(2012年1月1日～2012年12月31日)

(単位：千円)

支出の部			収入の部		
科目	2012年度決算	2011年度決算	科目	2012年度決算	2011年度決算
事務委託費	150	150	小教区負担金	1,950	1,943
支払手数料		1	貸付金利息	839	645
通信費	1	0	受取利息・分配金	510	442
			仮払金入金		70
					国債経過利息分
経常支出計	151	151	経常収入計	3,299	3,100
当期末貸付金残高	89,682	100,608	前期末貸付金残高	100,608	86,328
当期末現金預金残高	83,517	69,443	前期末現金預金残高	69,443	80,774
合計	173,350	170,202	合計	173,350	170,202

資料4

2012年度 一粒会会計収支状況
(本部受入分)

(単位：千円)

項目	2012年度	2011年度
前年度資金残高	29,095	25,281
〈2012年度の収支額〉		
一粒会費収入額	4,526	4,975
司祭育成の日献金教区組入額	319	396
収入額計	4,845	5,371
神学生養成費	1,640	1,452
練成会等補助	192	105
支出額計	1,832	1,557
2012年度収支額	3,013	3,814
年度末資金残高	32,108	29,095



起工式



この場所に建ちます

■カトリック新潟教区
司教館新築工事起工式開催!
 二〇一三年五月十日十一時、晴天に恵まれたこの日、現司教館裏の建設予定地において、菊地司教司式のもと、司祭、信徒、建設委員、教区職員の他、設計・建設関係者の参加により執り行われました。待望の建設がいよいよ始まりです。完成は十月の予定で、オープンハウスが計画されています。どうぞご来館ください。

司教館建設委員会ニュース

資料6

2012年度 指定献金・特別献金集計表 (本部受入分)

(単位：千円)

項目	2012年度	2011年度
児童福祉の日献金	895	991
教区青少年の日献金	296	354
聖地のための献金	253	260
四旬節愛の献金	1,238	1,486
世界広報の日献金	381	368
聖ペトロ使途座への献金	443	496
世界難民移住移動者の日献金	402	378
世界宣教の日献金	324	404
宣教地司祭育成の日献金	420	496
100周年特別献金	7,828	5,432
新司教館建設特別献金	45,773	
合計額	58,253	10,665

新司教館建設特別献金状況報告 ~2013年4月30日現在

献金先	スタート時金額	4月30日まで献金額	合計額
小教区でまとめて送金		10,602,887	10,602,887
修道会等	50,000,000	4,700,000	54,700,000
司教・司祭	4,106,000	730,000	4,836,000
信徒等個人	2,060,000	12,269,000	14,329,000
その他	17,000,000	6,193,155	23,193,155
献金合計額	73,166,000	34,495,042	107,661,042

- ・建設費 建設費総額 1億7千万円
 建設資金調達額 107,661,042円 (調達率 63.3%)
- ・特別献金の状況 献金目標額 1億円
 現在までの献金額 34,495,042円 (達成率 34.5%)

司教館建設献金者リスト

二〇一三年三月十一日～四月三十日まで受付
 (二〇一三年三月十日まで受付分は「建設委員会
 ニュース」で掲載)

・教会・団体(敬称略、順不同)

花園教会、亀田教会、高田教会、佐渡教会、糸魚川教会、寺尾教会、新潟教会、新潟教会ミニバザー収益金、新津教会、鳥屋野教会、直江津教会、鶴岡教会、福住教会、米沢教会、オタワ愛徳修道女会、カトリック神言修道会、聖心の布教姉妹会寺内修道院、聖心布教姉妹会保戸野修道院、カトリック看護協会新潟グループ

・個人(敬称略、順不同)

金子美次郎、佐藤ヨキ、星野俊子、川渕文雄、大塚和子、名古屋みこころセンター中根、本間義章、野村忠男、高山和子

☆引き続き特別献金にご協力くださいますようお願いいたします。

☆手続きは以下のとおり取り扱っています。

- 一 献金目標 一億円
- 二 献金の方法

① 小教区を通して

毎月(または毎年)一定額を献金する。
 一人ひとりの献金額は任意です。

② 教区本部へ直接

一度にまとまった額を献金くださる場合は、直接教区本部へご送金ください。

専用の振込用紙は小教区に備え付けています。

振込先 ゆうちょ銀行

口座記号番号 00530-8-43589

加入者名 カトリック新潟教区

※専用の振込用紙を使用しない場合は通信欄に「新司教館特別献金」とご記入ください。

三 献金期間

二〇一二年八月十五日から三～五年間を考慮しています。目標額に達したところで終了させていただきます。

詳しくは、司教館建設委員会ニュースをご覧ください。

二〇一四年度版 教区カレンダー今秋発行

昨秋発行の「二〇一三新潟教区カレンダー祈りの四季」(新司教館建設寄付金付)では、たくさんの方々にご協力をいただきました。ありがとうございます。現在、二〇一四年度版の発行に向けて準備を進めております。今回はさいたま教区と共同発行で、年間十二カ月のうちの半分で新潟教区内の小教区が紹介されます。九月上旬に各小教区、修道院に見本をお送りいたしますので、今回も是非ご購入ください。

地区便り

山形地区 賛美と感謝の集い カトリック新庄教会



まだ雪の残るカトリック新庄教会

五月五日、快晴のなか、マイクロバスはカトリック新庄教会をめざし出発しました。今回の目的は、県の信徒使徒職協議会総会で提案された合同ミサへの参加でした。

総会では、信仰年にあたる今年、山形地区において、山形と新庄、米沢と長井、鶴岡と酒田の教会が持ち回りで三回の合同ミサを行うことが決まりました。その第一回が新庄教会での合同ミサと山口亮二氏のコンサートでした。

到着した新庄教会周辺の日陰には、まだ雪が残っており、当日の春の日和とは対照的に長い冬の厳しさが感じられました。米沢、鶴岡教会の信者も加わり、約六十人が合同ミサにあずかりました。



講演される江部神父様

水野氏と一体になり、一曲ごとにその想いを解説しながら歌い上げていただきました。私たちは取り込まれたように聞きながら、いつの間にか神の愛、神への賛美と感謝を黙想させていたいただきました。

ミサ後は山形教会の本間神父の友人である山口亮二氏のコンサートが行われました。山口氏は現在、那須におられ、カトリックの養護老人ホームの施設長をされるなか、瞬きの詩人水野源三氏の詩を歌われています。水野源三氏は九歳の時に脳性麻痺により、目と耳以外の機能を失い、意志の疎通を目的の動きで行ったことで「瞬きの詩人」といわれました。山口氏は水野氏の神への賛美と感謝の詩に素朴で美しいメロディーを付け、

神父様は、信仰年に当たり、信仰を通してキリストの愛を証して行かざるを得ないと思う心(①祈り、分かち合い②生き方③典礼奉仕に参加)を育ててほしいと強調されていた。

新潟地区 新潟地区信徒大会について タルチジウス 藤崎 克己

Table with 7 columns: Church Name,信徒数, 洗礼 (幼見成人), 堅信, 結婚, 求道者. Lists various churches and their statistics.

新潟司教区統計 (2012年12月31日現在). Summary statistics including area, population, clergy, and various ministries.

注1. 結婚：信者同士、信者と他キリ、信者而非キリのみ
注2. 秋田教会には、聖体奉仕会シスターの人数(28人)が含まれています。